

シネマミーティングKOFU

CINEMA MEETING KOFU VOL.1

映像・言語・音楽の総合芸術である「映画」のワークショップを開催します。
日本映画界に新たな表現スタイルを確立した監督・増村保造(甲府市出身)、
世界のクロサワの右腕と呼ばれた脚本家の菊島隆三(甲府市出身)をはじめ、
山梨県は世界的な映画人を数多く輩出しています。

その山梨から次世代を担う映画人を送り出すとともに、映画ファンのすそ野を広げ、豊かな映画文化を発信します。

VOL.1 講師／矢崎仁司監督



開催日時:2012年12月1日(土)15:00~16:30

テーマ:「映画の見方・感じ方」

参加費:500円 ※定員150名(チケット販売)

※チケット販売は、山梨県立図書館総合案内、山BYBSグループ受付で行っています
(発売日などの詳細につきましては図書館総合案内にお問い合わせください)

矢崎仁司(やざき ひとし)／プロフィール

旧鯉沢町に生まれる。巨摩高校を卒業後、日本大学芸術学部映画学科に入学、在学中に監督した『風たちの午後』で世界的評価を得、『三月のライオン』では日本人監督としては二人目のベルギー王室主催リュス・ブニュエルの『黄金時代』賞を受賞。魚喃キリコ原作、池脇千鶴主演『ストロベリーショートケイクス』、江國香織原作、中谷美紀主演『スイートリトルライズ』など。現在、山梨を舞台にした小説の映画化を企画中。

現在活躍する映画人の中にも地元・山梨の映画文化を盛り上げたいと話す監督が大勢います。『三月のライオン』がヨーロッパの映画祭で高い評価を得た矢崎仁司監督(旧鯉沢町出身・富士川町在住)、『八日目の蝉』『山本五十六』など大作の演出が続く成島出監督(甲府市出身)、『サウダージ』で今世界からもっとも注目される若手日本人監督・富田克也監督(甲府市出身)らです。彼らのような日本映画の最前線で活躍する山梨

県出身の映画人を講師に、映画を楽しみながら学べるワークショップを、山梨県立図書館で開催します。

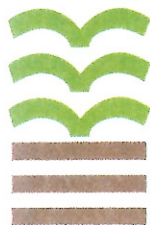
今回のワークショップでは講師・矢崎監督の作品「1+1=11」を鑑賞しながら、映画の“見方”を学び、映画製作にかかわるさまざまなお話を伺い映画に対する理解を深めます。一方、文学作品が原作の映画もありますので、映画の原作となった文学作品のフェアも実施します。

映画に興味がある幅広い世代の方々に参加していただき、映画を通じた生涯学習の場を提供したいと考えています。特に将来映像分野への進学・就職を希望する生徒・学生には有意義な時間となるはずです。参加者が講師陣と気軽に対話できるスタイルのワークショップです。是非ご参加ください。

参考映像 矢崎仁司監督作品

「1+1=11」

イチタスイチ ハイイチ



山梨県立
図書館

YAMANASHI
PREFECTURAL
LIBRARY

*主催:山梨県立図書館指定管理者

(山梨文化会館・甲府ビルサービス・NTTファシリティーズ共同事業体)

*お問い合わせ先:山梨県立図書館指定管理者 TEL055-255-1041

※内容は変更になる場合があります